

令和6年度 東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

平均正答率が全国平均に対比しての92.9%とし、令和5年度の87.4%から改善。各領域は全国平均に対比し「話すこと、聞くこと」は93.1%。「書くこと」は91.4%。「読むこと」は88.9%となり、全国平均を下回る結果ではあるが、大阪府平均に対比し、「話すこと、聞くこと」は97.1%。「書くこと」は94.3%。「読むこと」は90.2%となっているが、平均無解答率は令和5年度が9.8%(全国は4.6%)から4.5%(全国は3.9%)とし、取り組みに対する意欲も改善。

<数学>

平均正答率が全国平均に対比して99%とし、令和5年度の80%から大きく改善。各領域は全国平均と対比して、「数と式」は96.0%。「図形」は100.2%と全国平均を上回った。「関数」は98.5%、「データの活用」99.6%。大阪府平均に対比し、「数と式」は97.4%。「図形」は99.8%。「関数」は101.5%、「データの活用」103.8%大阪府平均を上回る領域もある。また、平均無解答率は令和5年度が18.3%(全国は9.6%)から13.3%(全国は11.3%)とし、取り組みに対する意欲も改善。

○大阪市英語力調査(GTEC)

大阪市平均の4技能はリーディングが105.7、リスニングが104.6、ライティングが149.6、スピーキングが102.1であり、本校平均はリーディングが95.3、リスニングが92.4、ライティングが128.3、スピーキングが95.3と全て下回っている。令和5年度と比較すると、リーディングは91.1、リスニングは91.6、ライティングは101.6、スピーキングは79.6と全てを上回り、トータルスコアも令和5年度の363.9から414.0と50.1ポイント向上している。

○チャレンジテスト

3年生の国語は対府比で97%(対市比97%)。また、同一学年としても令和5年度より3%の向上。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、25~29点の割合が多く、95~100点の割合が低い。

社会は対府比で103%(対市比104%)。また、同一学年でも1%の向上。得点分布では、20~29点の割合が低く、30~39点の割合が高く、平均点以下の層が頑張っていると思われる。

数学は対府比で98%(対市比98%)。同一学年では100%であり、2%の減少。得点分布では、高い割合では府を上回り、低い割合では府を下回っている傾向にある。

理科(C問題)は対府比では98%(対市比98%)。同一学年では100%であり、2%の減少。得点分布では、5~9点の割合が高く、10~24点の割合も高い、90~100点の割合が低い。平均点以上の層は頑張っていると思われる。

英語は対府比では91%(対市比90%)。同一学年では92%であり、1%の減少。得点分布では府と比較し、10~44点の割合が高い。65~69点の割合が極端に低く、80~100点の割合も低い。

2年生は対府比で国語は89%であり、同一学年では1%の減少。社会は87%、数学は89%であり、同一学年では1%の向上、理科は80%、英語は81%であり、同一学年では4%の減少となっている。1年生は国語、数学、英語の3教科実施であるため、社会と理科(大阪市plusは実施)は対府比がない。

得点分布は大阪府と比べ、国語が5~24点や60~70点が多く、80点以上が少ない。数学は15~25点と35~45点が多く、45点以上は全体的に下回っている。英語は25~35点が多く、55点以上は全体的に下回っている。社会は0~40点が全体的に多く、55点以上が全体的に下回っている。理科は10~35点が多く80点以上がかなり少ない。

1年生は3教科の平均正答率が対府比で国語は95%、数学は85%、英語は90%であった。大阪市plusの平均正答率は対市比で、社会は92%、理科は84%であった。

得点分布は国語が20~45点が多く、45~85点が全体的に少ない。85点以上は同じくらいである。数学は10~30点が多く、60~75点が少ない。英語は20~40点と30~50点が多く、85点からは少ない。

【今後に向けて】

得点分布が大阪府平均に対し、10~30点の割合が多い。依然として基礎基本学力の定着が厳しい状況である。しかし、生徒の学習状況に応じた学習教材の作成やキメの細かい指導により、一定の改善は見られる。基礎基本学力の定着を目標として、放課後やテスト前、長期休業期間の学習会の推進を継続し、自学自習の習慣化を定着させたい。また、個別最適な学習を推進するため、デジタルドリルやアプリを活用した家庭学習にもつなげていきたい。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

<成果>

全国平均と大阪市平均、令和5年度の平均と比較し、男子は握力、シャトルランが上回った。立幅跳びは令和5年度を下回ったが、全国平均と大阪市平均を上回った。女子はハンドボール投げで全国平均と大阪市平均、令和5年度の平均を上回った。合計では男女ともに令和5年度を上回った。

<課題>

男子は令和5年度からの課題である握力、上体起こしの向上が見られた。また、シャトルランから持久力の高さも見えた。全体的に全国を下回るが、大きな差ではない。女子は筋力、持久力、柔軟性と全体的に課題があるが、令和5年度からは合計が上回り、改善が見られた。

令和6年度 東淀中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—